



常夜燈のさと

九里半街道・伊勢西街道

常夜燈(じょうやとう) 燈明さんとして親しまれた

常夜燈は一晚中つけておく明りのことです。

神社や仏閣で、古くから2基一対で燈明台として献灯されてきました。江戸時代中期から、人物の往来が多くなるにつれ、夜道の安全のため、街道沿いにある**集落の始まりや辻**に、単基で常夜燈が設置され、更に街道の道しるべとしての役目も重なり江戸時代末期には立派な常夜燈が作られるようになったと考えられます。

特に伊勢参り、金毘羅参り、秋葉山参りなど「講」や宗教的な意味合いをもったものが多くなっています。

上石津地区には、九里半街道や伊勢西街道が通り、特に牧田地域には常夜燈が多く、全てが信仰の対象になっています。又伊勢西街道沿いは、大神宮、神明宮など、伊勢参りと関係の深い常夜燈が、道中の案内と無事を祈って続いています。



神社の常夜燈



下多良大神宮

「大神宮」は巖谷修氏の書



打上大神宮

伊勢西街道美濃の国入口



山灯籠型

常夜燈には、大きく分類すれば、**自然石型、宮前形、山灯籠形**に分かれ、自然石で建てられたものには、玉石、笠石、火袋石、竿石、基壇石のバランスが絶妙で美しい物が多くあります。地区の財力や個人の寄進で巨大化し、その地区のシンボルとして崇められ、「村内安全」を願い、今日まで大切にされてきました。

現在の光源は電球ですが、江戸時代は蝋燭(ろうそく)や菜種油を燃やし火を灯していました。今では非常に暗く感じますが、当時は電気がなく、真っ暗やみに浮かび上がる常夜燈は「陸の灯台」として、立派に役だっていたことでしょう。高価な蝋燭や菜種油を使用するので、一晚中の点灯は無理だったと想像されます。

◆上石津の常夜燈

「九里半街道」

No	宮別	所在地	形式	建立	総高・総幅	本体	基壇	玉垣	祭礼
①	大神宮	乙坂	宮前形	明治34年(1901)	H418*W273	H329*W177	4段	無し	7月第3日曜日
					九里半街道が沢田から当地に入り、左折する所にある。以前は5m程東にあった。工師 大垣・中谷甚三の文字がある。				
②	大神宮	牧田二又	自然石	安永9年(1780)	H385*W372	H320*W273	2段	有り	8月14日
					津嶋神社境内にある大神宮は明治の改造以前のもので地元で言い伝えられている。戦後間もない頃まで、かぼちゃ燈籠が献灯された。				
③	神明社	牧田出屋敷	宮前形	嘉永7年(1854)	H283*W281	H238*W137	3段	有り	7月第3日曜日
					大正13年(1924)5月に玉垣が谷口林之助氏により寄贈された。今も2月に伊勢講代参報告会が行われ、御幣が奉納される。				
④	秋葉山	牧田上野	宮前形	明治41年(1908)	H295*W275	H239*W188	3段	無し	9月18日
					後背の山の中腹に秋葉神社が祀られている。下宮として崇められている。旗竿新調に伴い、移設した際、磨かれ建立当時に蘇る。				
⑤	金毘羅大権現	牧田上野	自然石	天保12年(1841)	H560*W802	H492*W333	3段	有り	4月10日
					自然石を巧に積み上げた壮大な常夜燈である。この石は2km先和田の石洞(しほら)谷から運んだと云い伝えられている。				
⑥	大神宮	牧田上野	自然石	嘉永7年(1854)	H340*W655	H260*W202	2段	有り	9月1日近日曜日
					秋の例祭は八朔祭で、大垣市重要無形民俗文化財に指定されている。徳川家光の頃からと伝わる祭りで、中でもかぼちゃ燈籠は有名で、今も上野中道地区が伝承し、子供達のシャギリも奉納されている。				
⑦	秋葉社	牧田一色	自然石	明治16年(1883)	H325*W396	H240*W205	2段	有り	4月13日前日曜日
					古い九里半街道平井ルートの分かれ道近くに位置する。建立は近くの数軒を焼く大火があり秋葉山を祀る。石工北川彦助の名がある。				
⑧	秋葉山	牧田門前	宮前形	天保6年(1835)	H270*W186	H240*W135	3段	有り	春と秋に不定期
					集落中心の辻に位置し、夜の街路灯として重宝されたと思われる。右側には御札を収める箱があり毎年代参が続いている。				
⑨	金毘羅大権現	牧田平井	宮前形	天保12年(1841)	H308*W230	H215*W104	2段	有り	4月第一日曜日
					九里半街道の曲がり角にある。今須との境を過ぎ視野が開けた所で燈明のあかりが目に入り、旅人は安堵したと思われる。				

玉垣の主柱にある左記の印は何か?

「伊勢西街道」

⑩	两皇大神宮	牧田萩原	宮前形	嘉永5年(1852)	H476*W427	H329*W168	4段	有り	9月15日近日曜日
					火袋石下の竜の彫りは太陽信仰なのか?				
⑪	太神宮	牧田和田	自然石	慶応3年(1867)	H415*W460	H270*W230	2段	有り	9月第2日曜日
					大政奉還の年に建立された。以前は15M程西の伊勢西街道沿いにあった。玉垣には沢田石信の文字が見える。				
⑫	(不詳)秋葉山	一之瀬川東	宮前形	不明	H285*W196	H200*W97	2段	有り	4月3日
					竿の文字が判読できないので、祭祀は不明。地元では秋葉さんと親しまれ、毎年「可睡齋」へ代参を行っている。				
⑬	(常夜燈)	一之瀬殿垣外	宮前形	昭和55年(1980)	H370*W276	H235*W97	2段	有り	10月第2日曜日
					以前は木製で今も大切に保管されている。集落の中心に位置し「燈明さん」と親しまれている。前の道は伊勢西街道である。				
⑭	(常夜燈)	一之瀬川西	宮前形	昭和53年(1978)	H390*W320	H290*W124	3段	有り	9月16日
					今も伊勢神宮例祭が行われ、以前は木製であったと伝わっている。伊勢西街道最大の難所、勝地峠のふもとに建っている。				
⑮	大神宮	多良下多良	自然石	明治31年(1898)	H460*W500	H380*W300	1段	無し	4月第2日曜日
					自然石の立派な常夜燈である。基壇の自然石積は珍しく森伊之助氏が施工した。南側を伊勢西街道(大神神社参道)が通っている。				
⑯	大神宮	時打上	宮前形	明治40年(1907)	H406*W435	H328*W201	3段	無し	無し
					伊勢西街道の辻に、阿藤助助氏が寄進した。村人は伊勢神宮をこの地から遙拜(ヨウハイ)した。現在お祭は行われていない。				
種別	宮別	形式	建立	まとめ					
	伊勢神宮 8社	宮前形 10社	江戸以前 8社(最新は安永9年)	九里半街道・伊勢西街道が通る牧田地区や一之瀬地区は各集落に常夜燈があり、牧田地区では、全て信仰の対象になっている。					
	秋葉神社 3社	自然石 6社	明治以降 7社(最新は昭和55年)	又、山灯籠形が1基もないのが上石津地区の特徴である。					
	金毘羅 2社	山灯籠形 0社	不明 1社	牧田地区では数の多さ・その他の特徴から「常夜燈のさと」と云う。					
	不詳 3社								

発行 **九里半歴史文化回廊**
大垣市上石津町牧田 4024-5 ☎0584-47-2301

2013.11.1 発行

